

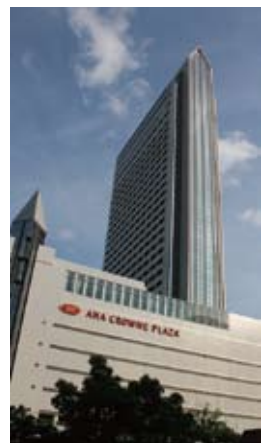
# ぜんしゅりきょり

2015  
6月  
Jun

通巻80号

## 第28回通常総会を神戸で開催!!

平成27年5月19日(火)、神戸のANAクラウンプラザホテルにて第28回通常総会が開催されました。総会の出席状況は、組合員数366名に対して、出席組合員数90名、委任状出席者206名、合計296名で出席率は80%超となりました。定款38条に定める総会成立条件の過半数を超え、本総会は有効に成立いたしました。



会場のANAクラウンプラザホテル神戸

一日目の午前中は三役会、午後からは各委員会・ニューリーダー部会・役員会、その後三時より第二十八回通常総会が開催されました。司会は西春貞夫専務理事。今回は小堀賢一理事長が春の叙勲で旭日小綬章を受章された、たいへんおめでたい報告もありました。

池田副理事長より開会の辞の後、小堀理事長より総会のご挨拶。



池田典明副理事長

なわれ、二日目を終了しました。二日目は阪奈兵和地区の皆様のご協力、エクスカーシオン、親睦ゴルフコンペが滞りなく行なわれました。

### ◆ 通常総会

#### 小堀理事長より総会へ挨拶

我々の業界は十年以上前から今後どのように進むべきか、どういふことに取り進むべきかということが議論されてきております。数年前に宗教用具業界の今後を考えるということで全国中小企業中央会様より大きな補助金をいただき委員会を立ち上げ、かなり分厚い報告書の中には様々なことが描かれております。今まではどちらかと言いつつ宗教用具のスペックを中心に消費者に説明していましたが、これからは役割というものを理解してもらおうという方向から進めていくべきではないかということに取り組んで参った次第です。その報告書が出来上がった直後に東日本大震災が起こりました。震災からの復興ということもありまして「ありがとうはみんなの力」をキャッチフレーズに事業展開をして来ました。被災地への救助活動にも寄せていただきました。この間は事業にも少し迷いがありましたが、今は「小さな祈りプロジェクト」を中心に生き生きと事業展開しております。賛同していただく団体も多くあります。我々の団体も地域色があつたり宗派色があつたり、また販売方法も様々で、一概に宗教用具業界と言いましても色々な考え・業態・業種が林立しているのが現状です。そのバラバラな状態を統一できそうな所までこのプロジェクトが浸透しつつあります。

池田副理事長より開会の辞の後、小堀理事長より総会のご挨拶。今回も、全国中小企業団体中央会・経営支援部長大和滋様にご来賓としてお越しいただきました。大和様には七年前に渡り中小企業等の協同組合の運用や解釈について全宗協へ堅実な立場からご指導をいただいております。もうお一方、創立以来顧問税理士をお努めいただき、決算業務をさせていただいております望月博元先生にもお越しいただきました。講演会では華厳宗管長・第二二



司会の西春貞男氏

世東大寺別当 筒井寛昭 猯下に「仏教の原点」というテーマで宗教用具業界にとっても大切な話をわかりやすくご講演をいただきました(↓P4〜P5に掲載)。

その後の懇親会では日本を代表する伝統芸能の一つである「淡路人形浄瑠璃」の上演、開催キーの受け渡しが行



小堀賢一理事長

今年二月に関係者にお集まりいただいた研修会を開催しました。全宗協だけではなく仏教会や石材業界、葬祭業界など近い関係の方々にもお集まりいただき、このプロジェクトに賛同していただいております。さらに幾つかの団体からは協力を金を出していただけることになつており力強い限りです。今大河ドラマでは幕末の時代が描かれておりますが、それそれ藩の体制が進んでい

### 【目次】

P1	通常総会
P2	各委員会事業報告、小さな祈りのプロジェクト
P3	懇親会、地区協議会役員及び委員名簿
P4	講演会 華厳宗管長・第221世東大寺別当 筒井寛昭猯下
P5	エクスカーシオン、ゴルフコンペ
P6	叙勲のご報告、事務局からのお知らせ

「小さな祈り」という言葉が宗教界や宗教用具業界を一つにするキーワードになりつつあります。ただ単年度の事業ではなく、中期経営計画のような長いビジョンとして浸透させて行きたいと思っております。勿論その他の事業も展開しておりますので、引き続きのご協力宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

## 【各委員会事業報告】

### 総務委員会

① 全国研修会  
平成二十六年一〇月一日～二日、メルパルク京都にて第一回全国研修会を開催。計七名の講師による講演、パネルディスカッションを行う。本年度も全国中央会の補助を受けて開催した。

平成二十六年二月二十四日、(株)エッサム神田ホールにて第二回(全国)研修会を開催。『PRAY for ONE』小さな祈りのプロジェクトCM映像お披露目キックオフ会。プロジェクト参加関連業界等参加の下、総勢七人によるパネルディスカッション。  
② 会報を事業計画に基づき、年三回発行した。

### 広報委員会

① 「ありがとうはみんなの力」昨年組合員に配布した幟旗、ポスター、缶バッジを組合員店舗にてPR展開  
② 八月二十四日(日)浜松町産業貿易センターにて『終活フェア』に出展。生活者からお仏壇への意識調査を実施。  
③ 二月二十二日(木)広報委員会開催。ありがとうはみんなの力を発展させ業界の啓蒙にCMを作成。新しい活動は『PRAY for ONE』小さな祈りのプロジェクトと名付け、この活動の経過報告と今後の活動内容を協議した。

### 事業委員会

昨年から事業委員会は本年二月に具現化されました「小さな祈りのプロジェクト」の事業展開を予算面からサポート(後方支

援)をすることのみならず、中長期にわたりに一緒に事業展開してゆくことといたします。

尚、昨年理事長の事業計画の中にありました、日本人がお仏壇を通じた生活の中での礼節や祈りの文化、風習(お盆・お彼岸・法事)などの外国人に対する紹介。仏事コーディネート・試験報告がされま

### 正常化委員会

① 会員から寄せられた情報により、不当表示が疑われる対象(主に展即業者)を消費者庁に告発した。  
② 景品表示法が改正されたので、会報を通じて会員に告知した。

### 会員増強委員会

全宗協パンフレット改訂版を作成、新入会員増強に活用。平成二十七年議案書と全組合員に配布。

### ニューリーダー部

① 平成二十六年五月二〇日(火) NLL部 総会、卒業式  
② 平成二十六年九月九日(火)、一〇日 (水)身延山久遠寺研修会  
③ 役員会(年六回開催)  
④ 平成二十六年一〇月一日(水)、二日(木) 組合研修(1)  
「伝統産業の未来は」という題材でパネルディスカッションを行いました。他業種の方とこれからの伝統産業の有り方や課題、思いなどをディスカッションしました。また、海外での実績など、他業種ながら日本の伝統を守り、また攻めていく姿勢には考えさせられる点が多くありました。  
⑤ 平成二十七年二月二十四日(火) 組合研修(2)

「小さな祈りのプロジェクト PRAY for ONE」について、発起各団体の方にお集まりいただき、各団体の取り組みや思い、また今後の展望などをディスカッションしました。テレビCMも放映し、まさにキックオフ、これから力を注いでいきたいプロジェクトです。

## 小さな祈りのプロジェクト説明

保志 康徳 広報委員長



今までの経緯をご説明します。日本香堂様にご協力頂いた全国CM放映の後、HPに「祈り紙」がアップされました。上野公園で行われた日本石材産業協会様の石博では「祈り紙」に願いを書き鶴を折り、箱に入れるということが行われました。千名ほどの方に書いていただきましたが、その三分の一くらいは海外の方でした。それをツイッターやフェイスブックなどで各国の言葉で発信していただきまして、祈る・折るという行為が国際的な感じになりました。

皆様のお店でも祈り紙をイベントに活用頂ければ集客の手段にもなりますし、お客様との交流ツールになります。集まった祈り紙を千羽鶴にしてお店の中に吊るし演出にもなります。いっぱいになったら仏教会にご協力頂き、安心して神仏の基にお届けするような準備も進めております。

祈り紙は「大切な誰かのために祈る」純粋な行為が美しいのです。利他の心を紙に込めて祈って行くものです。もう一つCMのことですが、皆様の店頭で流していただきたいのです。公共の電波を通して発信したいという販売店さんが増えています。その場合は別途協賛金にご協力頂きVTRの最後にお店のロゴマークを入れそれぞれの地域で流していただくという段取りで進んでいます。ご希望する企業様はぜひ事務局にお申込み下さい。

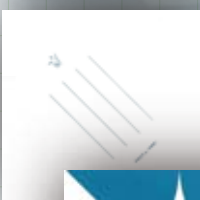
最後になりますが、祈り紙の海外バージョンを作りたいと考えています。成田や羽田、関空などの国際空港の中で取り扱ってほしい、お土産として買って持ち帰っていただき海外でも広めて行く。東京オリンピックを見据えた長い活動として、日本は優しくいい国だなと思っていただける一助になれば、またここに参加しておられる皆様も誇りを持って仕事をしていただけるような態勢にしたいと考えています。

ホームページもご覧ください。 <http://prayforone.jp>



みなさんで祈り紙を折りました

ここに願い事を書きます



色を明るく変更しました

## 懇親会

懇親会では、五百年の歴史を誇り、国指定重要無形民俗文化財でもある「淡路人形浄瑠璃」の公演を見ました。商売繁盛を願って、恵比寿様が鯛を釣るおめでたい演目で、会場も大いに盛り上がりました。



淡路人形浄瑠璃

今回の総会開催地、阪奈兵和地区協議会長 佐倉弘氏から小堀理事長へ開催キーの返還、そして次年度開催地北陸地区協議会長 木本隆久氏へ開催キーの伝達が行なわれました。



阪奈平和地区協議会より開催キーの返還



次年度開催の北陸地区協議会へ

## 《地区協議会役員及び委員名簿》(平成26年度～平成27年度)

●委員長 ○副委員長

地区	地区協議会会長	地区協議会副会長	総務委員会	広報委員会	事業委員会	正常化委員会	会員増強委員会
北海道 東北	八田 守立	升谷 昇平 丸屋 輝夫	升谷 昇平 藤村 義郎	●保志 康徳 小嶋 長一	丸屋 輝夫 佐々木丈巳	小野 隆市 兒玉 高周	八田 守立 佐藤仁一郎 佐藤 晶洋 渡部 徳章
関東 甲信	前田 平成	坂田 晴義 山田 宗宏	松野 智幸	川本 恭央	鳥居 邦夫 辻 幸明	山田 宗宏	小森規興志 小仲 正克 前田 平成
北越	木本 隆久	本保 実	廣川 勝彦 関 秀道	山口 敏雄 大竹 正信	●池田 典明 木本 隆久 星野 幸博	笠原他喜雄 大越 則夫 岐津 晃平	藤田 整司 竹澤 恵子 吉田 竹也
東海	小室健次郎	小長井由朗 杉浦 伸司	杉浦 伸司 山田 宗宏	○横井 浩 川喜田 彰	小室健次郎 小長井由朗	坂 新太郎 水野 清仁	○河田 栄治 柴山 義幸 河野 善孝
京滋	橋本 晃一	田中 雅一 吉田 光宏	●吉田 光宏 刑部 正巳 土屋 隆 大久保 武	三浦 豊隆	○岸本 光史	加茂 定治 神戸 良司	●橋本 晃一 小林 大介 畑 正高
阪奈 兵和	佐倉 弘	濱田 明彦 山中 誠人	山中 誠人 中田 信浩	濱田 明彦	○中造 和夫	佐倉 弘 松谷 和美	福井 正彦 下村 暢作
中国	高山 正	今浦 公博	今浦 公博 中谷 哲夫	高山 正 藤田 孝夫	田戸 孝雄 中原 博	三村 博昭 横田 正登	三村 邦雄
四国	今山 秀人	森 正	木下 進	高井 一憲 立花 孝文	吉本 康彦 依岡 敏治	●森 正 岩佐 武彦	上林 敏成 岸本 耕三 今山 秀人
九州 沖縄	江頭 那将	白川 十郎	○江頭 那将	野上 嗣之	東 純一	○白川 十郎	江頭 那将 白川 十郎
担当 副理事長			三村 博昭	三村 博昭	池田 典明	白川 十郎	八田 守立

# 講演 「仏教の原点」

華嚴宗管長・第221世東大寺別当

## 筒井 寛昭猊下

昨年十一月に信者さんとインドの仏跡巡拝に行き、仏教説話やお釈迦様の逸話を話しながら仏跡を巡って来ました。やはりその場所でお話したのだなと感じることが大切で、宗教というのはどのように人を救っていくものかということを考えながら、お釈迦様の原点に戻ってお話したいと思えます。

東大寺のことはもう皆様ご存じだと思いますが、大仏様が何を語りかけているのかを、お釈迦様の一生を通してお話したいと思えます。

実は去年行くに際し、昔の人はどんな思いでインドに行くか考えたか考えておりました。鎌倉時代の華嚴宗の中興の祖と言われる明恵上人はインドに行きたかったのですが、皆に引き止められて泣く泣く諦めたと言われています。また、平安時代に首が落ちた大仏様を修理された真如法親王は、実際にインドに出発されたのですが、マレー半島で亡くなってしまいました。他にも何名か記録が残っています、やはり日本の仏教の指導者



筒井 寛昭猊下

たる方たちはインドに行ってみようという気持ちで非常に強かったようです。

大仏様は七五二年にできたのですが、その時に開眼の導師をされたのが菩提僊那、インドのパラモン僧です。聖武天皇もインドから偉いお坊さんが来てくれたのでいい開眼になったと喜んでいました。実際にインドに行ってお釈迦様の軌跡を歩いてみるのは仏教徒にとって大切なことだと思えます。

### ■四大仏跡から

お釈迦様が生まれた時、成道した時、初めて人々に話をした時、そして亡くなる時が四大仏跡で、さらに四つを加えて八大仏跡ともいいますが、昨年は七大仏跡を回りました。

まずお釈迦様はルンビニーで誕生されて、七日目にお母さんが亡くなってしまい、人生の無情に直面されています。また、畑を耕している虫がいつぱい出て来て、それを鳥がつかいばむ。虫は悪いことはしてないのに、人間たちが掘った土の中から掘り出されて鳥に食べられてしまう。人間の行為で虫が鳥に食べられてしまっている。そういうことに対してお釈迦様は感受性が高かった。王子の時シタダタが城外に散歩行くと、最初は年をとって醜くなった人、次に病に苦しんでいる人、その次に亡くなって運ばれて行く人に出会います。最後に出て行く修行者がいて「苦しみが無いように修行している」と教えられ、自分もそうしたいと思いい、修行の生活に入りました。当時の宗教はヒンドウ教で輪廻転生を謳って

いましたから、そこから解放されて苦しみの循環を断ち切るために修業する。そして涅槃を目指して行くというのが仏教です。輪廻そのものは仏教の教えではありません。仏教の中で一番肝心なのは「四諦」「八正道」の教え。「四諦」は「苦諦・集諦・滅諦・道諦」の四つ。全部繋がったもので、生きるということとは苦しみ。苦しみは人間の執着にある。それを無くしたら苦しみの無い世界に入れる。その方法として「八正道」がある。正しい行いをすれば

苦しみを克服できる。これがお釈迦様が最初言われたことです。「四苦八苦」で苦しんでいることは、先ほど言った四つの門を出て見た姿「生・病・老・死」と「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五陰盛苦」の八つ。これを「八正道」で克服して行くということ。また、説法の中で「小欲知足」というお話をされています。多くを望む人たちは苦しみも多い。今あるもの満足している苦しみは少ない。これもお釈迦様が最初言われた教えの一つ。そういうことを二千五百年前言われている。インドの仏跡を巡るといことは仏教の原点に触れることなのだと思います。

お釈迦様が生まれたのはルンビニー。マヤ夫人が里帰りする途中産気づいて生まれた。そこで言われた言葉が「天上天下唯我独尊」。この世で自分が一番偉いということではなく、生まれて来た命はみんな大切、それを喜ばなくてはいけないということ。それからブダガヤという所でスジャータという娘からミルク粥をもらって気力を回復し、菩提樹の下（金剛宝座）で四十九日間瞑想。十二月八日未明、金星が光るのを見て悟りを開かれたと言われています。しかし悟ったその真理が余りにも難しかったためにお釈迦様は人々に話すのを躊躇しますが、梵天の三度の頼みを受け、世の人々のために法を説くことを決心されます。そしてかつて一緒に修業していた五人の仲間「サルナート」でおこなった説法が「初転法輪」。ここに宗教としての仏教が成立します。その時説かれた教えが「中道」と先程話した「四諦八正道」。「祇園精舎」はご存じだと思います。「阿弥陀経」の中などに出てきますが、お釈迦様がここで話された「貧者の一灯」というお話をご存じでしょうか。どうしてもお釈迦様の話を聞きたいと思った貧しい少女が自分の髪を売ってささやかな灯明を買って持って行く。そこに大風が吹き他の灯明は全て消えたのに、その少女の灯明だけは消えなかった。「賢愚経」にある教えですが、大仏殿の前の八角灯籠の竿に実はこの話が刻まれています。大仏様にも灯明をあげていただきたいという

こと。阿弥陀経にも祇園精舎でお話されたことと書いてあります。岩が鷲の形をした霊鷲山では「観無量寿経」の物語です。ここでは「法華経」などの話もされたのだなと思いがら旅行しておりました。お盆の時に読む「盂蘭盆経」もここ霊鷲山で話されました。地獄に落ちた目連の母親を救うために、母に代わってサンガの僧侶や信者さんに食べ物を持って母の供養をするというお話です。知らないうちに悪いことをしてしまい地獄に落ちてしまつてからではどうすることもできない。だから最初からそういうことをしないように、いつも心は善で、人の喜ぶことをしなさい。そうすると地獄に落ちることはない。そういうことをお釈迦様は目連に教えたわけなんです。

### ■六相円融の教え

人間は何でも自分の判断で考えて、虎が鹿を食べることは悪いけど鹿が草を食べることは悪くないと、善悪を決めつける。これからは今の人がどういう風に思っているのかということに話を変えます。

お釈迦様がいた二千五百年前より生活も向上し、社会もずっと良くなったと思っている人も多いですが、例えば大切な愛犬が亡くなって、悲しんでいる人がいる一方で、静かになつて良かったと言っている隣人がいる。一つの事実でもいろんな思いがあるのに、それを理解できない。お釈迦様の言うように周りの人のことも考えてあげる。そういうことができない人が多い。ここに円柱がありますが、上から見る人は円にしか見えません、横から見ている人には長方形に見えませんが、同じ物を見ているのに違う物に見えてしまうということが多々あります。「六相円融」という話があります。六つの事柄が混ざり合つて一つのものが出来上がっている、ということ。今の社会も複雑になっていて、一つの物が色々な見えてしまっている。こういう時代にはお釈迦様の話がとても大切です。

## ■ 社会は人の心から

今の社会で問題になっているのは、「自殺」「いじめ」「環境問題」の三つです。自殺者を減らすのは厚労省、いじめは文科省、環境問題は環境省と、別々な省庁で対策をしようとしていますが、宗教的に言えばこの絵の木のように、葉は色々な問題を起こしているけれど根は一緒。三つの物は元々一つの心から出ているのです。ですから人々の心を変えることによってこの三つの問題は解決できるのです。

オーストリアの社会学者アルフレッド・シュルツは「人の思考の原点」は、過去の一切の経験で出来上がっていて、両親・先生・友人からの情報に拠る所が大きい。だから自分を形成するには、色々なことを経験し、人の話を聞き人々から学んで行くことが大切だと言っています。

例えばその話の一つとして「お天気お姉さんの話」があります。テレビ局でアルバイトをしていた女性が急遽代理で天気予報をすることになりました。そこで「明日は雨で悪いお天気です」と言ってしまう、終わってから「ディレクターに叱られてしまった。雨が降ることが悪い訳ではない、雨が降らないと作物が育たない、飲み水が不足する。困ることがたくさんあるわけです。

或はこれから虫が沢山出て来ますが、蚊やムカデが出てくるとやはり嫌だから殺したりしますよね。その虫は自分にまだ何も危害を加えていないのに、過去の経験で害虫と決めつけ殺してしまう。虫にとっては迷惑な話です。蚊は害虫だけどミツバチは益虫と人間の勝手な判断が生き物たちの命を左右してしまふ。

「地獄と極楽」という仏教説話があります。百人くらいの人がある部屋が二つあって、どちらにも食べ物や並べられてあり、人々は一メートルほどもある長い箸を持たされ、片方の部屋では皆われ先にと争って食べようとすると、もう一方の部屋では皆箸が先にと争って食べようとすると、

う片方では皆ニコニコ、長い箸でお互い向かいの人に食べさせてあげているからです。人の心の違いによって社会が変わるのです。日本には「情けは人のためならず」といういい諺があります。人にかけて情けは回り回って自分の所に返って来るといふことです。お釈迦様の話は難しいと思うかも知れませんが、説話とか逸話などで仏教の原点に戻ってみると、自分たちがどうあるべきかということが簡単に分かります。

社会が悪いという前に、仏教のこういうところを実践すれば世の中は良くなって行くといふことを、仏教に関係した仕事をされていく皆様もぜひ広めて行っていただきたいと思ひます。ご清聴ありがとうございます。(了)



姫路城にて

## オプションツアー

幹事 株式会社奈良大仏堂 山中誠人氏

28名参加でのエクスカーション。真新しい白漆喰が眩しい世界文化遺産・国宝姫路城の見学の後、姫路城を眺めながら「イーグレ・キャッスルミレ」での昼食、最後に豊かな自然に囲まれた書寫山圓教寺を拝観しました。

お天気にも恵まれ、充実の一日となりました。



書寫山圓教寺

## 親睦ゴルフコンペ

幹事 株式会社福井仏具店 福井正彦氏

今年10月に日本オープンが開催されます、兵庫県の六甲国際GCで親睦コンペを行いました。

14名が参加され、絶好のゴルフ日和の中、タフなセッティングではございましたが皆様方と、和気あいあいと楽しいひと時を過ごす事ができ、親睦を深める事ができました。

入賞者は /

- ◇ 優勝 福井 正彦さん 株式会社 福井仏具店 (阪奈兵和地区)
- ◇ 準優勝 河田 栄治さん 株式会社 浄華 (東海地区)
- ◇ 3位 松本 光平さん 株式会社 八光堂 (阪奈兵和地区)



参加者のみなさんで記念撮影

## 小堀 賢一理事長が 春の叙勲で旭日小綬章を受章されました

— この度はおめでとうございます。この旭日小綬章を受章されて一言お願いいたします。今のご心境などをお聞かせください。

「産業振興功労ということですが、ご存知のように業界が低迷している中、産業振興功労というのをいただくということは気恥ずかしい感じですね。何らかの手を打って業界が少しでもよくなってくれればと思います。そしてこれは安田松慶現相談役に引き続いての立場としていただいたわけで、その立場にいるわたしがみなさんに応援していただいたというわけですね。」

— お仕事についてコメントをお願いいたします。

「安田相談役から引き継いでいる仕事については研修事業、広報関係、それが特に目立ったことですね。とくに研修事業はかなり定着しました。そして他の事業では一つは仏事コーディネーター資格審査協会です。もう一つは仏壇公正競争規約。これは全宗協だけではなく全宗協と全仏連が手を組んだ事業ですが、かなりインパクトがありました。全宗協は今366社ですが、仏壇公正取引協議会は今529社ですのでたいへん影響力があります。エネルギーも使いましたが、みなさんについて来ていただいて仏壇公正取引協議会は設立から3年、ようやく定着してきたかなという印象を持っております。」

— これからの全宗協をどのような構成で進めていきたいですか。

「宗教用具全般について今まではスペックによる販売に重点が置かれていました。例えば漆の事、金箔の事、原産国。しかし仏壇のように精神性に絡むというのは宗教用具の役割ですので、今後はそれをアピールしていくべきだと思っています。仏壇というものは効用・役割がはっきりしていないので非常に難しいことですが、これは大事なことです。」

我々の業界は、伝統的工芸品との結びつきが非常に強いのですが、伝統的工芸品はまさにスペックなんじゃないかと。たしかに手作りのものですので技術者と消費者で良い関係も芽生えてきますが、わたしが宗教用具の役割を考えたときには伝統的工芸品というのを表に出しすぎていたという感がありますね。その辺りを『小さな祈り』に方向転換してこれから進めていきたいと思っています。ここが一番訴えたい大事なところですよ。」

— 今後の全宗協、スペックと精神性は非常に相容れないものですがそこに相乗効果をもたせて広報していく。その先の全宗協はどのようなビジョンでしょうか。

「宗教用具の役割をアピールすると言っても簡単なことではないので、ひとつは海外の力をお借りしよう

と思っています。東日本大震災の時に海外の方が日本人の礼節の正しさや倫理感などを評価されていて、そのことによって我々日本人が気づいたと思うのですが、そのストーリーをうまく描けないかと。一つには5年先の東京オリンピック、5年間かけてこの事業を推進していきたいと思っています。

海外の方は、日本の家に礼拝場所があったり、お坊さんが家にこられるということに驚きます。家庭に仏壇があるというのは、日本人は物を精神文化に結びつける、物があって行動を起こさせるというのが得意技かもしれません。我々の場合は宗教用具があってそれから祈りという行動が引き出される。

祈りについて脳科学者が研究しており、βエンドルフィン、そういった好感物質が出てくるのが証明されているそうです。それが分泌されることによって気分がよくなるのと同時に免疫力も高まるそうです。ですから今申し上げたことと言っていると宗教用具というものがあってアクション=祈りが引き起こされ、祈りによって好感度が高まるという良い効果があると。

その先の結びつきとして日本人の礼節の正しさとか倫理観といったことをもう少しきちっと証明していきたいですね。」

— 祈りや笑いが脳内の良い物質を出し、ひいては健康や明るい社会につながっていくということですね。

「ただ、今申し上げた行動は宗教用具があって祈りという行動があってというのですが、これは宗教とはまた少し別物なんですよ。日常生活でそういった行動を起こすのは、それぞれの教義的なものとは関係なくなってきましたね。お仏壇は仏教があって誕生したのですが、それが日常生活に浸透した昨今では、お仏壇をもっておられて毎日きちんとお祈りしている家庭でも、宗派の教えはわからないという方が大多数です。

しかしながら日常生活に礼節の正しさが生まれてくるというのは非常に大きいことです。日本人には知らぬ間に礼儀の正しさ、日常生活を律する働きが芽生えてきているように思います。」

— 小堀賢一理事長、お忙しいところありがとうございました。



### 事務局からのお知らせ

#### 1. 当面のスケジュール

◆ 10月7日(水)～8日(木)  
全宗協一泊研修会 (メルパルク京都)

#### 2. 組合員数 平成27年6月20日現在 366名

**新規加入者** 平成27年1月1日以降

(株)JAやすらぎセンター 仏壇館  
鈴木正章様(4月22日)

#### 3. 組合関係者の訃報(平成27年3月21日～平成27年6月20日)

##### 【北海道・東北地区】

(株)八田神仏具店 代表取締役 八田 守立様(ご母堂)八田 敬子様 平成27年4月7日 82歳

##### 【東海地区】

(株)五大 代表取締役 林 恒男様(ご母堂)林 美智子様 平成27年5月6日 91歳

##### 【中国地区】

(有)今浦佛具店 代表取締役 今浦 公博様(ご尊父)今浦 實様 平成27年5月29日 87歳

(株)三村実本店 代表取締役 三村 博昭様(ご尊父)三村 實様 平成27年6月13日 91歳